



みやき町イメージキャラクター  
みやつきー

みやき町は北部九州の中央、佐賀県の東部に位置しており、北部は脊振山地の稜線をもって福岡県筑紫郡那珂川町と接し、南部は筑後川に面し、主に筑後川を挟んで福岡県久留米市と接しています。脊振山系に源を発した寒水川、切通川などが、なだらかな丘陵地帯と田園地帯を流れて筑後川に注ぎ、筑紫平野の穀倉地帯の一部として重要な役割を担っております。近年は、都市部に隣接していることもあり、自然環境に恵まれた生活圏としても注目されています。

主要農作物は米、麦、大豆ですが、乾田化が可能になった圃場では、イチゴ、タマネギ、トマト、コネギ、アスパラガスなどの野菜も積極的に取り入れられています。



### 筑後川下流用水事業について

現在、福岡県及び佐賀県は筑後川下流地区約34,800haの農地に筑後川から導水事業を実施しております。また、国営筑後川下流土地改良



筑後川下流用水佐賀取水口・揚水機場

事業、県営ほ場整備事業とあいまって、地区内に散在するクリークの統廃合による大規模な用排水系統の再編成、淡水取水の合理化、用水不足の解消を図るとともに、農業の近代化、農業経営の合理化を図っております。

### 定住総合対策事業の取り組み ～子育てするなら、みやき町～

わが国の人口は平成20年をピークに減少へと転じ、今後、減少が急速に進むことが予測されています。本町においても、この人口減少は町民生活の活力の低下を招くだけでなく、地域経済や財政にも大きな影響を及ぼし、地域の存立基盤にも関わる深刻な問題であると認識し、平成24年から「定住総合対策事業」に取り組み、翌年には、今後の本町の活力増加や人口の維持・増加を担う「若者・子育て世帯」をメインターゲットとした「みやき町定住総合対策基本計画」を策定しました。



民間資金等活用事業(PFI)により整備した公営住宅

「子育てするならみやき町」を合言葉に、平成24年9月には「子育て支援のまち宣言」を行い、「民間資金等活用事業(PFI)による子育て世代向け住環境整備」「地域子育て支援拠点の充実」「高校生向け通学支援バスの運行」等、子育て環境の充実に向けた取り組みを進めております。

おかげさまでその翌年度から3年連続で「転入超過」を果たし、人口減少の歯止めに一定の効果が数値に表れていることは、「子育て支援施策」の効果がでてきているものと考えております。

安心できる環境で子育てができるような体制づくりと、妊娠期・出産期・育児期それぞれのニーズに対応した切れ目のない支援として、妊娠期においては、平成27年10月に開設した産前産後サポートステーションにおける産前産後ケア、出産期には第1子から出生祝金の支給により次世代を担う赤ちゃんの出生を祝福し、保護者の子育てを支援します。育児期には、高校生までを対象に医療費の助成を行っており、さらに、小・中学校給食費については、第3子以降は無償化し、第1子、第2子についても半額の補助を行っております。



産前産後サポートステーション

教育面でも、育英資金貸付基金の創設をはじめ、生徒の学力向上、生徒指導、不登校対策の充実を図るため、「特別支援学級支援員」、「教諭補助員」、「スクールカウンセラー事業」、さらにICT(情報通信技術)を活用した授業を行うにあたり「サポート支援員」の配置を行っております。

ハード面でも、町内小中学校すべての教室に電子黒板を導入したほか、タブレット端末・学習システムを導入したICT教育の実施、普通教室と



電子機器を活用した授業風景

特別教室への冷暖房施設を整備し、教育環境の充実に努めています。子どもは、まちの未来をつくっていく、かけがえのない宝であり、子育て・子育てに取り組むことは将来のみやき町をつくっていくことそのものであると言えます。

### 「交流新都」をめざして

まちづくりにあたっては、町民みんなで話しあい、みんなの心を通わせ、みんなの気持ちをつなぎ、「協働」の考え方をもって、町民と行政が一丸となって取り組んでいくことが必要です。そして、佐賀東部・筑後川流域の広い地域において、周辺の都市と連携しつつ、人・モノ・情報が交流する新しい中心、『交流新都』をめざします。



秋に咲く山田地区のひまわり